



# 道路交通の發達と鐵道

國際通運株式會社々長 中野 金次郎

凡そ一國交通機關の發達狀態は、以て直に其の國富の程度を物語るものであるといふことは夙に人の知る所である。我が國は明治五年京濱間に始めて鐵道が開通してより以來鐵道及び軌道を以て唯一の陸上交通機關として之が建設に殆ど國を擧げて没頭した結果鐵道は非常な發達を遂げて、

爾來六十餘年間に官私鐵道並に軌道を合して約一萬四千哩の普及發達を見るに至つたのである。是等の鐵道軌道が今日まで我國の文化の發達を促進し又産業の開發を助長じて國富の増進に資する事多大なるものゝあつたといふことは何人も認むる所であるが、一面陸上交通機關として、鐵道軌道と相並んで交通運輸上缺くべからざる道路といふものは、其の爲に全く閑却せられて、國道はもとより、府縣道、市町村道に至るまで纔に消極的存在を續けるに過ぎない状態に在つたことは、顧みて甚だ遺憾の次第である。

素より今にして想へば、永き鎖國の夢を破つて一躍海外の列強の間に伍したる我國は、當時泰西文明の移植に日も亦足らざる状態で在つて、目前の急に迫れる鐵道の建設に没頭したる結果、道路交通に關する經濟上の研究が自から等閑に附せられたといふ事も亦已むを得ない事であつたと思ふ。併ながら之を今日の國家經濟の大局より觀るならば、貨物輸送と謂はず旅客運輸と謂はず道路に依る輸送が鐵道のそれに比較して遙かに高率なる賃金を要する現狀に在ることは、輕々に看過すべからざる問題である。即ち斯の如きは地方産業を開發助長し、一國物資の需給を圓滑にし、以て國民生活の安定を企圖する上から言つても、決して策の得たるものではない。之を救はんとするの途は、鐵道建設と相俟つて道路の改良に努力し、以て陸上交通機關の完璧を期するに在ると信ずるのである。

○

加ふるに軌近自動車の發達に伴つて、道路の交通上に於ける經濟的價値は一層痛切に之を認めら

るゝに至り、之が爲に全國に亘つて道路の改良新設の機運を著しく促進するに至つたことは、陸上交通上海に慶ぶべき事であると謂はなければならぬ。就中過る第五十六議會に於て、所謂産業道路補助費の成立を見たるが如きは、専ら自動車の發達に刺戟せられたる道路改良の機運の醸成を物語るものであると思ふ。本年度は國家財政の運用上其の大部分は實施を見るに至らない事は、吾人の頗る遺憾の意を表する所ではあるが、内務省に於ては之に代るに府縣道幹線道路の系統的改良を計畫し、他面鐵道省に於ては短距離の鐵道豫定線に對しては自動車輸送を以て之に代ふべく、自動車道路の調査を進めるの議があると聞くことは、亦以て一層道路改良の機運を促進するものと謂ふべく、邦家の爲に洵に慶賀に堪へぬ次第である。計畫の名目の如きは吾人の深く問ふ所ではない要は道路改良事業の實施に在るのである、吾人は速に其の計畫が具現して、我國の道路が面目を一新するの端緒を開かんことを切望して止まない。

○

我國に於ける自動車利用の現状は道路の状態と相俟つて未だ過渡期に在るものと謂ふべく、貨物は勿論旅客輸送に於ても合理的經營を行つて居るものは至つて稀である。故に今日の經營状態を以て直に自動車道路と鐵道との利害得失を比較するは將來に大なる違算を來すの虞あることは誰しも考ふる所であるが、殊に交通運輸の事業に携る者又道路行政の局に當る人々は、此の點に細心の注意を拂つて將來の道路政策に對する方針を決定すべき必要があると考へる。

元來短距離の輸送は旅客、貨物を問はず、自動車輸送に依るを有利とすることは、世の識者の意見の一致する所であるが、現在の道路を以てする自動車輸送の經營方法に於ては、必しも鐵道に優ると言ひ得ない場合の多々見受けられることも亦否定すべからざる事實である。是に就ては道路を利用する自動車輸送が將來重要な交通機關としての位地と責任とを有すべき趨勢に鑑みて、其の經營の合理化といふ事を研究することが急務である。

併ながら一面現在の鐵道輸送の場合に於ても、鐵道と貨物とを連絡すべき前後の道路に依る輸送的である以上、旅客貨物の集散移動ある限り、道路は縦ひ不完全であつても、之が利用されることは當然の事である。最近都市の近郊に於ては最も自動車の利用が盛であるが、其の道路の状態を概観するに、荒天に際しては路面が常に破損し爲に自動車を驅るも甚しく不愉快を感じ、又車體の損傷の程度も著しい爲に、已むを得ず鐵道軌道に依る傾向が尠くないと思ふ。故に鐵道軌道の補助機關としても是等の道路が改良せられる事は交通の能率を増進するものであつて、其の裨益する所大なりと謂ふべきである。

○

上述の如く道路改良の機運は年と共に促進せられ、今後國家及び地方の財政を按配して漸次道路の新設改良が行はれ、一面自動車輸送の合理的經營が實現せられて運賃の低廉を來したならば、日を

逐うて之が鐵道と競争の立場に立つに至ることは、外國の事例に徴しても想像に難からぬ事である。早晚斯の如き運命に至るべき場所に新に鐵道を敷設して、互に競争的經營をなすが如きは、所謂資本の二重投下ともなつて、徒に國費地方費の濫費に了り、眞に交通機關としての發達を期し得ない結果に陥るものと謂はなければならぬ。宜しく今に於て陸上交通政策上百年の大計を樹て、短距離の交通に對しては専ら道路に重きを置いて自動車輸送の健全なる發達を促し、鐵道との無益なる競争を避けると共に之が連絡を計り、以て其の交通機關としての機能を十分に發揮せしむることに努めなければならぬ。